

藤崎町を明るく、元気に。 私たちが地域を盛り上げます。

新体制で活動スタート。3人の地域おこし人材をご紹介します！

令和6年3月31日をもって、地域おこし協力隊の笠原綾子さん、鎌田いづみさん、吉田翔瑛さん、地域活性化起業人の香田遼平さんが任期を終えました。そして今年度からは、新たなメンバーで藤崎町を明るく、元気に盛り上げていく活動を行います。

地域おこし協力隊
工藤 光 さん



(令和6年4月着任)

地域おこし協力隊
大和田 賢吾 さん



(令和6年1月着任)

移住定住コーディネーター
桜庭 幸子 さん



(令和3年6月着任)

地域おこし協力隊となった経緯

私は弘前市出身で、家族の転勤のため札幌市に住んでいました。札幌市では乳幼児睡眠コンサルタントとして、夜泣き相談や睡眠講座などの、子どもや子育てに関わる仕事をしていましたが、将来的に地元に戻りたいという思いがありました。そんな中、青森県内で子育て関係のイベントの開催を通して、地域おこし協力隊として活動されていた鎌田さん、笠原さんと出会い、藤崎町の地域おこし協力隊制度や町の資源・環境・地域の方々の温かさなどについてお話を聞いていくうちに、藤崎町っていいな、住んでみたいなと

思うようになりました。また私自身、以前から思い描いていた「子育て世代が地域の中で子育てがしやすく定住したい」と思える環境づくりを藤崎町で実現したいと思うようになり、地域おこし協力隊への応募を決めました。

これから取り組んでいくこと

「子育て環境の充実化(地域ぐるみの子育て推進)」をミッションとし、活動を行っていきます。例えば、核家族化地域の繋がりの希薄化で子ども服などのおさがりをもらえなかったり、費用がかかったりという問題を解決するため、子育てグッズや衣類、絵本などを

捨てずにシェアしあえる体制を作っていきたいと考えています。また、SNS等デジタルを活用し、睡眠をはじめ子育てに関わる悩みを各専門家に相談できるような仕組みを作っていきたいとも考えています。その他にも子育て関係のイベントの開催や食育の取組など、幅広く子育て関係の活動を行っていきたいと考えています。これから町の活性化のために頑張りますので、よろしくお願いします！



地域おこし協力隊として行っている活動

1月に地域おこし協力隊に着任し、まずは藤崎町のことを学び、自分自身のことを知ってもらおうと、たくさん場所に出向き、つながりづくりの力を入れていきます。

私の地域おこし協力隊としてのミッションは、「暮らし観光による誘客」「ふじさき産品プロモーションによる誘客」です。

「暮らし観光による誘客」については、町で活動する団体と連携した家族・子ども向けのイベントを開催し、新たな誘客の仕組みや観光コンテンツの発掘を目的としており、5月3日に、協力隊着任後の初イベントとなる「りんこの

花見inわんどおらんど」を開催しました。このイベントは、あそべるりんご園わんどおらんどを運営するふじさきAPPLEアミューズメントと連携し、「りんこの花見」という新たな観光コンテンツをふじ発祥の地・藤崎町で楽しんでもらうと企画しました。



「ふじさき産品プロモーション」による誘客については、町の特産品やグルメの魅力を全国に発信するため、

移住定住コーディネーターとして行っていること

2021年に移住定住コーディネーターに着任し、今年度で4年目となりました。

私は主に、移住定住に関する活動と、空き家対策に関する活動を行っています。移住定住に関する活動としては、移住のお役立ち情報や地域の情報を発信する移住支援サイト「ふじさきべらっく」



を立ち上げ、サイトの運営や、移住に関する情報発信を行っています。昨年度から新たに、「移住者の声」コーナーを新設し、実際に町へ移住された方6組にご協力いただき、移住した経緯や藤崎町を選んだ理由などを発信しました。また、移住者にコミュニケーションの場を提供することを目的とした移住者の集いの開催や、首都圏で行われる移住関連セミナーへの参加なども行っています。



今年度取り組んでいくこと

今後は、地域おこし協力隊OBOGの方々のサポートも得ながら、町で活動する団体と連携したイベントの開催や、魅力あるふじさき産品の発信強化に力を入れていきます。

また、私の経験を活かせる教育関係や、飲食関係の取組なども企画しながら、いろいろな分野から町を盛り上げていけたらと思っています。

今年度取り組んでいくこと

空き家対策に関しては、空き家対策説明会や、相続登記の義務化についての説明会を開催し、昨年度は多くの方にご参加いただきました。

これまで行ってきた移住定住関連・空き家対策関連の活動を引き続き行いながら、新たに「終活セミナー」を開催する予定です。これまでの活動を通してわかったことは、空き家対策・相続登記などは「終活」としても深く関連しているということです。「終活を行うことで生活全般の色々な課題に向き合い、町民の皆さんが町で安心して暮らすためのお手伝いができればと思っています。

地域おこし協力隊OG
笠原 綾子 さん



場となったと思っています。
卒業後について
地域おこし協力隊としての活動や、かさこ*ハウスの運営を通して、町内外の様々な方と交流することができ、コミュニティを広げることができました。卒業後もかさこ*ハウスの運営を続け、たくさんの方の表現・交流の場につなげていきたいです。そのためにかさこ*ハウスはみなさんがより快適に過ごせる場所になるようリニューアルしていきますので、お楽しみに！
また、協力隊活動期間中に、古物商許可証を取得したため、今後はかさこ*ハウスでの古物の販売などを行っていきたいと思っています。

地域おこし協力隊OG
鎌田 いづみ さん



した。中でも、ときわにんにくを発信するイベント「にんにく食べどき」の開催は、協力隊着任時からJA津軽みらいときわ農協と連携することを目標としていたため、実現させることができ、また多くの方にときわにんにくの魅力を発信することができ、3年間の中で最も成果が大きかったイベントとなりました。
卒業後について
3月に設立した一般社団法人ROU TE22を通じて、現役地域おこし協力隊や、これまでに開催したイベントの開催に向けたサポート等を行っていきます。

地域おこし協力隊OG
吉田 翔瑛 さん



その他にも、子ども向けのなぞときチャレンジ教室、子ども食堂などで、子どもたちが楽しく過ごせるような活動も行ってきました。
卒業後について
2月2日に、「吉翔園(きっしょうえん)」を開業し、ブドウの栽培を行いながら、協力隊の活動を通して得られた地域目線のノウハウを活かした事業サポートのほか、楽曲制作やドローン撮影、動画作成などを手がける兼業農家として、自分の持つ強みを活かした事業を行っていきます。農業と私の強みで、藤崎町をさらに盛り上げていけたらと思っています。

地域活性化起業人OB
香田 遼平 さん



発見する、考える、体験する。」をコンセプトに、展示内容やミュージアムのキャラクター、写真スポットとなるオブジェなども1から手掛けました。
完成した今、子どもから大人までみんな楽しんでくれる場所になったと実感しており、今後たくさんの方の心に残る場となってほしいと願っています。

**地域おこし協力隊として
主に行ってきたこと**

2020年に藤崎町に引越し、約4年間地域おこし協力隊として活動をしてきました。着任した当初は、東京では聞きなじみのなかった津軽弁に興味を持っていたため、津軽弁を勉強しながら、津軽弁の面白さをYouTubeで配信していました。
2021年には、ギャラリイとして活用しながら、地域の方が表現できる場



**地域おこし協力隊として
主に行ってきたこと**

地域おこし協力隊に着任した1年目は、地域の方々と交流しながら、稲刈りやにんにく、りんごの収穫体験のPRを行いました。2年目は、1年目に私自身が行った収穫体験を多くの方に「来て、観て、体験」してもらいたいと思い、イベントの企画・運営を行いました。3年目はさらに多くの方に「来て、観て、体験し、



楽しんで」もらうために様々なイベントを開催しました。「ニンニク掘りドキッ」や、「シャインマスカット収穫ドキッ」の収穫体験イベントをはじめ、町の新たな観光スポットである国道7号線のコスモスロードの開花を記念した「コスモス音楽祭」や「ふじさきハロウィン2023」を開催し、好評をいただきました



**地域おこし協力隊として
主に行ってきたこと**

地域おこし協力隊1年目は、唐糸御前史跡公園で「おはヨガ」の開催や、ふじさき食彩テラスでの「レシピコンテスト」の企画、SNSを活用した町のPR活動に取り組みました。
2年目は、町の良さを撮影・発信したいという思いからドローンの操縦免許を取得し、PR動画の



撮影・発信を行ったほか、津軽地域のラジオ番組・FMジャイゴウエーブに出演し、ラジオでの町の魅力発信も行いました。
3年目は、これまでの活動に加え、他の協力隊員と協力して、コスモス音楽祭やハロウィンイベントなどを開催し、町内外から多くの方に来場していただくことから、地域全体で盛り上がりを感じられる1年となりました。



**地域活性化起業人として
主に行ってきたこと**

私は、地域活性化起業人として2021年に町に派遣され、約3年間町を盛り上げるための活動をしてきました。中でも、面白法人カヤックのプロデューサーとして様々な地域プロモーションを手がけてきた経験を活かし、旧弘前実業高等学校藤崎校舎を利活用した、町の新たな産業拠点となる「ふじさき産業文化交流施設(リングォカ)」を手掛けたことが活動の大きな成果です。リングォカに展示する作品を募集した「アップルクリエイティブアワード」の開催をはじめとし、リングォカのロゴや、



体育館や教室、校庭など空間全体の活用方法、リングォカ・ミュージアムの展示内容など、町の良さを楽しく、面白く学べる場所となるよう、様々な視点からアイデアを出しました。特に、リングォカ・ミュージアムの展示に関して、旧藤崎校舎が、りんごとともに子どもたちを育ててきた場であることから、これからの子どもたちの未来を育む場として、「たのしく、

